

土曜日も市役所で 窓口が利用できるようになります。

平日にお勤めで仕事が休みにくいかたに朗報です。土曜日にも市役所で住民票などの手続きができるようになります。

このあいだの3、4月の引っ越しシーズンに、市役所では土曜開庁が試行されていました。そして、市民ニーズの把握や業務体制の検証をしたうえで、来年2月から一年を通して土曜日の窓口サービス開始へと準備が進められています。

倉田哲郎市長は、これまで、身近で便利なサービスの拡充を進めてきました。例えば、住民票の写しなどの証明書発行サービスは地域の図書館にも拡大され、土・日曜日に手続きできるようになっています。

また、この5月からはパスポートも市役所で発行できるようになりました。市民の生活感覚に沿ったかたちで、市役所をどんどん変革していく倉田哲郎市長の発想力、実行力がここでも發揮されています。

◇土曜日にできる手続き例

- ・証明手続き（住民票、印鑑証明等）
- ・引越しに伴う手続き（転入転出、印鑑登録など）
- ・国民健康保険、介護保険、国民年金、医療費助成などの手続き
- ・保育所や学童保育、児童手当などの手続き

倉田哲郎市長は、市民の皆さまの健康を願って、誰もが気軽にカラダを動かす運動を楽しめるよう、さまざまな仕掛けを考えています。きっかけのひとつは、去年11月の「水戸黄門歩こう会 in 箕面」。予想をはるかに超える1500人の参加者が箕面滝道をウォーキング。「諸国を漫遊した黄門様のように歩いて健康に」という企画がみごとにヒットしました。

適度な運動は、健康を維持し、生活習慣病を遠ざけ、ストレスも発散、友達もできるなど、まさに良いことづくめ。でも、運動をしない人はまったくしないのが現状です。この「まったく運動しない人々」をターゲットに、どうしたら運動を始め、続けていつもらえるのか？この難題に、倉田哲郎市長は果敢にアタックしています。

魅力あるウォーキングイベントや運動教室を開いていくとともに、いま注目されているのが「ラジオ体操」。たつた3分でバランスの良い全身運動ができる優れもの。「実はスゴイ！ラジオ体操」本も、ベストセラーになっています。市では滝ノ道ゆするのスタンプカードや景品も用意して、ラジオ体操の普及を後押ししています。箕面のあちらこちらで、市民が楽しんでいるまちをめざして、倉田哲郎市長は、今日も知恵を絞っています。

◆編集室に寄せられた



期日前投票が近くになりました！

今まで仕事帰りに市役所まで時間を気にしながら投票に出向いていたのですが、箕面駅前の平尾会館でも投票ができるようになったと聞き、参議院選挙の投票をしてきました。わざわざ市役所まで行かなくても、仕事帰りにも立ち寄り、投票ができるなんて、とっても助かりました。他に、豊川支所でも投票できるそうです。

投票所が近ければもっと気軽に投票に行く人が増えると思います。一人でも多くの人が選挙に参加できる街になっていくといいですね。(H.Fさん)

後編集

まだまだ暑い日々が続くようです。特に水分補給が大切です。お身体には十分ご自愛されますようご祈念します。

さて、倉田哲郎市長の2期目のスタートを契機に、今後の広報活動や支援活動をより分かりやすくするため、市政報告などさまざまな活動を倉田哲郎後援会に集約しました。

これまでの「箕面の明日をつくる会」が発行していた「市民のチカラ」から、「倉田哲郎後援会」が「箕面のチカラ」と名前を変え、新たに発行していくので、どうぞ引き続きのご支援をよろしくお願いします。



“箕面のチカラ”

2013年9月号

倉田哲郎後援会 Fax 06-7635-7195

倉田市政が誕生しすでに5年が経ちました。この間の数々の新しい政策や倉田市政の業績を、倉田哲郎後援会として少しでもお伝えしたいと思います。

昨年8月の選挙において、引き続き市長として仕事をさせていただく機会を賜りましたことを心から感謝申し上げるとともに、大変光栄に感じています。

2期目も引き続き「安心・支えあい最優先」「子育てしやすさ日本一」「緑・住みやすさ最先端」の政策の3本柱で進めてまいります。加えて、新たな4年間では「教育改革」「北大阪急行線の延伸と駅周辺のまちづくり」「公務員制度改革」の3つのテーマに特にこだわって取り組んでいきたいと考えています。

「教育改革」からは逃げません。当事者意識を持って学校を指導できる教育委員会をめざして、教育委員を公募し“保護者が中心となる委員構成”に改革。加えて、教員の意識改革と授業力向上のための改革を進めています。

準備の最終段階を迎えた「北大阪急行線の延伸」。大幅な国との支援を引き出すことによって実現の目処をつけました。バス路線網の再編も含め、長期的な展望を持ち、交通インフラ整備の最終コーナーを全速力で駆け抜けています。

最後に「公務員制度改革」。「頑張る職員には報い、頑張らない職員には“一切”報いない！」これが信念です。人事・給与制度を大胆に見直し、総人件費の削減と公務員気質からの脱却を確実に図ります。

これまでも申し上げましたように、愛すべき「箕面」にこだわり、「箕面に住んでいて良かった」「箕面に住みたい」「箕面にずっと住み続けたい」、そんなすばらしい箕面をめざし、全力で進んでまいります。どうぞ引き続きよろしくお願ひいたします。

倉田哲郎

セカンドステージまつしじら！



教育改革

箕面市では昨年度から、市立小中学校のすべての児童・生徒を対象に、毎年、独自の学力・体力・生活状況を調査する「箕面子どもステップアップ調査」をスタートしています。これは全国でも例を見ない取組みで、一人ひとりの成長をきめ細かく把握し、翌年度の授業に反映し、9年間を通して、子どもたちの学力・体力の向上と豊かな心の醸成を図っていこうというものです。

また、「授業力の向上」をめざし、今年6月下旬から箕面市の教職員総勢100人以上が、全国で学力No.1・体力No.3の秋田県を視察しました。極めて優れた教育の実践を目の当たりにし、多くの教員は「積極的に発言する学習姿勢」や「組織的に取り組んでいる授業スタイル」に驚きの声を上げており、教育委員からも「箕面市でも積極的に導入を進めたい」との声が出ていたとのこと。

加えて、教育委員会と学校現場で相互の人事交流も始まっています。この4月から市の管理職が小学校の校長・副校長へ登用され、新しい視点での学校運営が始まりました。

本年4月からは、司令塔にあたる教育委員会が、公募による「保護者が中心となる委員構成」に改められています。保護者や地域の方々と同じ緊迫感や敏感さをもつた高い当事者意識により、箕面市の教育力を向上させる体制が整いつつあります。



「農業公社」は、地元農家と協力して、ときには遊休農地も耕しながら、給食の食材に地場野菜を供給していきます。すながり、その畑で育った野菜が、子どもたちのお昼ご飯として並びます。お預かりする給食費は、通業者ではなく地元の田畠を育てる地域も育てる取組みがいよいよ始まります。



北大阪急行線の延伸と駅周辺のまちづくり

箕面を将来にわたり支え続ける鉄軌道「北大阪急行線の延伸」。倉田哲郎市長は新たな事業手法を国に提案し、大幅な支援を引き出すことによって実現の目処をつけました。現在は詳細な地質調査など、工事着手の準備が着々と進んでいます。

一方で、重要なのが新駅周辺のまちづくりです。かやの中央にできる(仮称)新箕面駅の周辺は、両翼に広がる豊かな田園風景との共存を重視し、倉田哲郎市長は「農あるまちづくり」を表明しています。このため、農業が持続する仕組みをつくるべく、すでに箕面市版「農業公社」を設立し、遊休農地の解消に踏み出しました。

船場地区の(仮称)箕面船場駅の周辺は、これまでの「物流のまち」から「人の流れるまち」への転換を図るために、新産業や文化の核となる施設の整備をめざしています。

鉄道延伸に伴うバス路線網の再編も箕面市にとって重要です。バスの起点が千里中央から大きくシフトすることで、市内バス移動の利便性と鉄軌道へのアクセス性が飛躍的に高まり、自動車依存度を下げることで、箕面市は公共交通主体の街へと転換していきます。



「農業公社」は、地元農家と協力して、ときには遊休農地も耕しながら、給食の食材に地場野菜を供給していきます。すながり、その畑で育った野菜が、子どもたちのお昼ご飯として並びます。お預かりする給食費は、通業者ではなく地元の田畠を育てる地域も育てる取組みがいよいよ始まります。

「農業公社」は、地元農家と協力して、ときには遊休農地も耕しながら、給食の食材に地場野菜を供給していきます。すながり、その畑で育った野菜が、子どもたちのお昼ご飯として並びます。お預かりする給食費は、通業者ではなく地元の田畠を育てる地域も育てる取組みがいよいよ始まります。

公務員制度改革

倉田哲郎市長は、「頑張る職員には報い、頑張らない職員には“一切”報いない」が信念です。これを制度化するため、2期目就任直後、民間企業での勤務経験のある若手の職員を中心としたプロジェクトチームを発足させ、白紙の状態から「あるべき姿」を検討し提案するように指示しました。さる2月にはプロジェクトチームが「人事・給与制度構造改革プラン(たたき台)」を公表しています。



このプランでは、「給与制度の抜本改革」として、総人件費の約10%(約6億9千万円)を削減。上司よりも年長の部下の給与が高くなるような、従来の公務員制度を打破する新たな給与制度が提案されています。

また、「人事評価制度の抜本的改革」として、横並び主義の絶対評価から相対評価へ手法を変更し、評価結果を昇任・降格・給与へ反映させることも提案されています。

倉田哲郎市長は、これらの提案について早期に改革できるものは、平成25年度中から実施するとしており、全国の自治体のモデルとなることをめざして「公務員制度改革」を強力に進めています。



倉田哲郎市長の足跡 5年間の活動録

年度	月	主な施策と出来事
20	8	・第15代箕面市長に就任(8/27) 12 ④・財政構造改革の「緊急プラン(素案)・ゼロ試案」を公表
21	4	・平成21年度予算で6年ぶりに經常収支を黒字転換 5 ⑤・箕面グリーンロード(トンネル)の値下げに向けた社会実験を実現
22	9	・新たなバス交通「オレンジゆずるバス」の実証運行を開始 3 ③・市立小・中学校・幼稚園の耐震化率100%を達成(大阪府内初)
23	4	・止々呂美で自然を満喫できる 「スノーピーク箕面キャンプフィールド」がオープン 8 ⑧・静岡県富士宮市と「災害における相互応援に関する協定」を締結 9 ⑨・図書館8館体制を確立する「知の拠点づくりアクションプラン」を発表 6館体制よりも少ない経費で2館新設を実現へ 10 ⑩・公立小学校・保育所における給食食材の放射性物質検査を実施 ・全市立小学校に地域防犯活動拠点「地域安全センター」を設置 警察官が定期巡回 12 ⑪・彩都の施設導入地区が「関西イノベーション国際戦略総合特区」に指定 1 ⑬・余野川ダム負担金が国から異例の返還決定 3 ⑭・大規模災害時に迅速に対応するための「災害時特別宣言条例」を議会で可決 ・北大阪急行線の延伸に向けて大阪府・鉄道事業者と 「北大阪急行線の延伸に係る事業調査の覚書」を交換
24	4	・国・大阪府・鉄道事業者と協同で北大阪急行線の基本設計と現地調査に着手 ・保育所の待機児童数をゼロにする「箕面市待機児童ゼロプラン(H21.10.)」を達成 ・図書館にICタグシステムを導入し、貸出・返却を完全自動化(大阪府内初) ・箕面駅周辺と滝の整備が完了しリニューアルオープン。「川床」本格実施 5 ⑤・新稻の山林を無償で借地し、市民の森「箕面新稻の森」として保全。甲子園球場1.3個分 ・市独自の空間放射線量の定期観測を開始 6 ⑥・豊能地区3市2町の図書館の広域利用を開始 7 ⑦・全小学校区で青色防犯パトロール活動(自主防犯/パトロール活動)を開始 8 ⑧・2期目第16代箕面市長に就任(8/27) ・人事・給与構造改革プロジェクトチーム(改革特命チーム・ゼロII)を発足 10 ⑩・35メートル級はしご車を豊中市と共同運用開始。経費を節減しながら消防力を強化 ・全国初の「希望業務選択方式」による総合評価入れで 公共施設の管理経費を約3億2千万円削減 ・保全のため滝道を公有化した「旧河鹿荘」がおしゃれなカフェレストラン「MINOH KAJIKASOU」としてリニューアルオープン ・小野原地域の多世代交流拠点「小野原多世代地域交流センター」がオープン ・全国トップクラスとなる子どもの医療費助成制度の拡大を議会で可決 11 ⑪・健康ウォーキングイベント「水戸黄門歩こう会 in 箕面」を開催 ・スケアード・ストレート教育技法による 自転車安全教室を市立中学校2校で実施 ・「ゆるキャラグランプリ」で滝道ゆづるが 2年連続で全国ベスト10入りと近畿・大阪第1位を獲得 12 ⑫・総選挙で期日前投票所を2箇所増設(豊川支所・箕面駅周辺) ・止々呂美地域の田園景観を守るために「都市景観条例の改正」を議会で可決 1 ⑬・箕面学力・体力・生活状況総合調査(箕面子どもステップアップ調査)を実施 ・箕面市初の全市一斉総合防災訓練を実施 2 ⑭・「人事・給与構造改革プラン(たたき台)」を発表。総人件費を10.1%削減へ ・平成25年度予算案を発表(5年連続で經常収支を黒字化。前年度より改善) 3 ⑮・「箕面市・緊急経済対策プロジェクト」を発表。74億6千万円の事業を 地域に還元するとともに、市の負担を20億6千万円軽減 ・市役所窓口業務の「土曜日開庁」を試行実施(3~4月)
25	4	・箕面の農地を守るために、箕面市版「農業公社」を設立 ・公募委員(保護者等)が中心となる教育委員会がスタート ・小学校の校長・副校長に教育委員会事務局職員を登用 ・新放課後モデル事業スタート(2校) ・福祉複合施設「稻ふれあいセンター」がオープン。老朽化した 高齢者施設「松寿荘」「永寿園」を移転し、同時に子育て機能などを付加 ・耐震診断の無料化がスタート。 ・旧耐震基準で建築された古い木造住宅の安全チェック ・箕面森町への「(仮称)履正社大学」の誘致に合意 5 ⑤・箕面市役所で「パスポートの申請・受け取り」が可能に ・小野原地域に「多文化交流センター・小野原図書館」がオープン ・風しん流行の緊急事態に対応し、風しん予防接種の費用助成を実施 ・「オレンジゆづるバス」が月曜~土曜に本格運行を開始。併せて、 日曜・祝日にお買物や娯楽を目的とした新たな実証運行を開始 6 ⑥・東洋経済新報社の「住みよさランキング」で 箕面市が全国26位、2年連続大阪第1位 7 ⑦・国の基準を超える「箕面市待機児童ゼロプランver.2」を策定